

## 研究に関するお知らせ

### — 原発性ネフローゼ症候群の患者さんへ —

金沢医科大学病院では、原発性ネフローゼ症候群の患者さんの病態を解明し、診断および治療法を確立することを目的として、以前に採取させて頂いた血液、尿および腎生検組織を研究目的で使用する場合があります。このような研究は倫理委員会の審査を受け、承認された後に関連の研究倫理指針に従って実施されます。

**研究参加期間: 倫理委員会審査承認後 ~ 2030年12月31日**

**【研究課題】 原発性ネフローゼ症候群の病勢と血中抗ネフリン抗体との関連についての疫学的検討**

**【研究目的】** 最近の臨床研究では、原発性ネフローゼ症候群(Nephrotic syndrome, NS)、特に微小変化型ネフローゼ症候群 (Minimal change nephrotic syndrome) と巣状分節性糸球体硬化症 (Focal segmental glomerulosclerosis, FSGS) における抗ネフリン抗体の存在が報告されています。ネフリンはポドサイトスリット膜の主要な構成タンパクで、糸球体における尿濾過調節機構において重要な働きを担っています。抗ネフリン抗体によりネフリンが障害を受けることで蛋白尿が誘発される機序が想定されています。本研究では、原発性ネフローゼ症候群の臨床経過に抗ネフリン抗体が与える影響やそのメカニズムを疫学的に検証します。本研究の遂行により、原発性ネフローゼ症候群における抗ネフリン抗体の意義を明確にすることで、診断や治療方針の決定に役立てることができます。

**【対象・研究方法】** 対象となる患者さんは、当院で2004年から2023年間に原発性ネフローゼ症候群(微小変化型ネフローゼ症候群、巣状分節性糸球体硬化症、膜性腎症)と診断され、治療を受けておられる方です。腎臓内科医局に保存してある血液検体を用いて血中抗ネフリン抗体を測定し、カルテ診療情報に記録されているこれまでの臨床経過との関連性について統計学的に解析します。今後、本研究のために新たに予定されている検査はなく、すでに採取させて頂いた血液、理学所見および腎生検検体を使用させていただきます。研究全体として約60人の患者さんの検査情報の収集を予定しております。

**【研究機関名】** 金沢医科大学病院

**【個人情報の取り扱い】** 収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

**【その他】** この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。本研究では保存検体を用いて抗ネフリン抗体の測定という特殊検査を行いますが、これら保険適応外検査の費用は全て研究費から支出されます。また、研究の対象となる患者さんに謝金はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。

**ご自身の検査結果など研究への使用をご承諾いただけない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。**

ご協力よろしくお願い申し上げます。

**問 い 合 わ せ 先**

研究責任者: 熊野 奨 金沢医科大学 医学部 腎臓内科学 医師

住所: 石川県河北郡内灘町大学 1-1 TEL 076-286-2211(内線:23403) FAX 076-286-2786

※ご連絡の際には、お名前/金沢医科大学病院の診察券番号/拒否する研究のタイトルをお知らせください。